

DEBUT 首長

川崎市長 福田 紀彦氏



ふくだ・のりひこ 1972年川崎市生まれ。中学を卒業後に渡米し、米ファーマン大（政治学専攻）卒。衆院議員秘書を経て2003年に神奈川県議会議員。13年、2度目の出馬で川崎市長に当選。41歳。

待機児童と給食が緊急の課題 「特区」生かし成長戦略描く

川崎市 東京都と横浜市に挟まれた工業都市で公害の街と呼ばれたが、環境規制で克服。大型再開発で生まれ変わった川崎駅前や武蔵小杉駅前は住みたい街上位。人口145万人。

——力強い産業都市と安心のふるさとを二大看板に掲げるが、昨年11月の就任以降、話題になるのは待機児童の解消と中学校給食の導入ばかり。経済政策が見えず、市政が福祉偏重ではないか。

それは誤解だ。成長戦略と福祉の向上は車の両輪。地域の経済成長や財源抜きで福祉を語れないのは明らかだ。ただ公約で「待機児童と中学校給食を真っ先にやる」と宣言した以上、そこから手を付けないと先に進めない。

目標である2015年4月時点での待機児童ゼロのハードルは相当高いが、もとより承知で挑戦している。絶対になし遂げる覚悟で組織横断の対策チームを作った。中学校給食の16年度からの導入も同様だ。給食の推進チームに対しては15年度予

算案の編成に間に合うよう、当初予定を2～3カ月前倒して今夏までに素案を出すよう指示した。

市政のすべての面でスピードを重視したい。トップが目標と達成時期を明確に示し、衆知を集めて即座に実行する体制を整えたい。

——3期12年務めた前市長の阿部孝夫氏は生命科学、環境、福祉の3分野を成長エンジンと位置付け特区事業に力を入れた。この路線は踏襲か。

京浜臨海部を中心としたライフインベーション国際戦略総合特区などの経済政策については、基本的に従来の取り組みを踏襲するつもりだ。前市長の路線を否定することが市長交代の意味ではない。良いものは良い。その上で課題が見つければ素早く軌道修正していく。他の施策も同様だ。

まだ生煮えの段階だが、東南アジア諸国連合（ASEAN）との経済連携を大幅に強化したいと考えている。この分野は市役所より川崎商工会議所の方が先

行しており、商議所の山田長満会頭に協力を求めたところ「14年中に一緒にASEAN諸国を視察しよう」という話になった。

ASEANに進出する地元企業を支援するだけでなく、ASEANから日本に来る企業の後押しも手掛けたい。江戸時代、長崎県の出島が日本と海外をつなぐ懸け橋だったように、川崎をASEANの出島にできないか。川崎に出先を設ければ、快適なオフィスがあり、日本の税制や商習慣が分かり、販路開拓の支援も受けられる。そうした環境を整えたい。

——多摩川を挟んで対岸にある東京・大田区との連携は。

市長に就任した直後に大田区の松原忠義区長を訪ねたのは私の思いの表れ。ずばり、ラブコールにほかならない。大田区にある24時間稼働の羽田空港と、多摩川を挟んで対岸の殿町地区を結ぶ「羽田連絡橋」の早期実現に向け、努力を傾けたい。（聞き手は

川崎支局長 管野 宏哉）